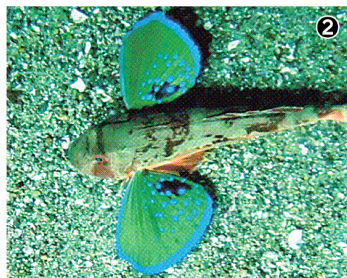


①

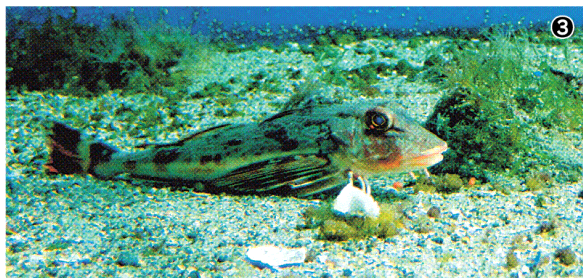


①胸びれの一部が変化した「遊離軟条」。脚のように使って海底を移動します②色鮮やかな胸びれが目を引きまします③かごしま水族館で飼育しているホウボウ

②



③



ホウボウは水深10〜600mの海底に生息しています。40cm程度に成長する魚体でひときわ目立つのが、青い蛍光色に縁取られた鮮やかで大きな胸びれ。翼のように広げて泳ぎます。

なぜ、ホウボウと呼ばれるようになったのでしょうか。「ボーボー」と鳴くからという説や、海底をほうほうに移動する様子から「ほうほう」が転じたという説もあります。どれが正しいのか定かではありませんが、いずれも魚の特徴をよく捉えています。

鳴き声とは体の中にある浮袋を使って出す音のことです。警戒や威嚇

ホウボウ 名前から分かる生態

嚇のほか、求愛の意味もあると考えられています。

私には「ボーボー」ではなく「グググ」と聞こえます。このように音を出す魚は意外と多く、「発音魚」と呼ばれています。

ホウボウには胸びれの一部が変化した「遊離軟条」という器官が左右3本ずつあります。この器官を使って海底を移動するのです。1本1本動かすことができます。まるで脚のようです。

海底を動く様子は、はついているように見えなくてもありません。しかし、ただ移動しているだけではありません。遊離軟条には味を感じる細胞があり、餌を探しているのです。水槽内でも、落ちた餌を遊離軟条で触って、味を確かめてから食べる光景が観察できます。

面白い特徴がいくつかのホウボウは4階のアマモ水槽に展示しています。ぜひ探してみてください。(展示課魚類展示係・中村政之)